

## Microsoft 認定 Azure Fundamentals、

### Administrator Associate 試験合格体験記

現在、クラウド・コンピューティングに関する検定試験はクラウド・ベンダーごとに行われており、Microsoft Azure に関しては、3 レベル、6 資格の認定試験があります。

初級レベルは Fundamentals の 1 資格、中級レベルのアソシエイトは、Administrator Associate、Developer Associate、Security Engineer Associate の 3 資格、上級レベルのエキスパートは DevOps Engineer Expert、Solutions Architect Expert の 2 資格があります。

私は 2022 年 1 月に Fundamentals を、2022 年 3 月に Administrator Associate を取得しました。

#### ・全体

##### (1) 試験の概要

Azure 認定資格は、Azure を利用したクラウドの専門知識を証明する資格です。クラウド・コンピューティング・サービスは常に新しいサービスが開発され提供されるため、中級レベル以上の資格の有効期限は 1 年間に設定されています（初級レベルの Fundamentals は有効期限がありません）。有効期限が切れる半年前から Microsoft Learn の更新アセスメントを無料で受けることができ合格すれば更新できます。アセスメントは何度でも受けることができます。ただし、アセスメントに合格しないと資格は失効し再度認定試験を受け合格する必要があります。

##### (2) 特徴

特徴は、CBT (Computer Based Test) で、通年全国で受験可能なことです。ピアソン VUE 社のサイトからいつでも申し込みができ、全国にある提携試験会場で受験できます。また、コロナ対策として自宅などからオンラインで受験することもできます。

私は、Fundamentals は自宅からオンラインで、Administrator は試験会場で受験しました。昨年 AWS 認定試験もピアソン VUE 社で自宅からオンラインで受験したのですが、その時に比較し、今回の Fundamentals 試験の方が自宅の試験環境のチェックが厳しくなっています。試験直前に日本語のあまり上手ではない試験監督対応に余計な神経を使うのはよくないと思い、Administrator Associate 試験は試験会場で受けることにしました。

試験問題の出題パターンは、択一選択、複数選択だけではなく、シナリオ、ケーススタディなどもあります。シナリオは課題に対して解決策が提示され、解決策が課題を解決するかどうか「はい」、「いいえ」で回答するものです。課題は変わらず解決策が代わり数問出題されます。シナリオは見直しができません。

ケーススタディはある企業の事例が提示され、問題が数問出題されるものです。事例問題の文章量が多いのですが、問題と同じ画面に表示されないため、要点をメモしながら読む必要があります。

試験問題は複数のセクションに分かれています。セクション内は見直しできますが、次のセクションに移動すると前のセクションには戻れなくなります。

試験を終了するとすぐに点数と合否がわかります。試験は 1000 点満点、700 点以上で合格です。その後、メールが来てダッシュボードから認定証・バッジなどがダウンロードできるようになります。

## • Fundamentals 試験

### (1) 概要

Fundamentals 試験は、クラウドと Microsoft Azure に関する初歩的な試験です。Microsoft Azure に関して 4 つの基本レベルスキルが問われます。

- クラウドの概念
- コア Azure サービス
- Azure のコアソリューションと管理ツール
- セキュリティ、プライバシー、コンプライアンス、信頼
- Azure の価格、サービスレベル契約、およびライフサイクル

試験時間は 45 分で、1000 点満点 700 点以上が合格です。

### (2) シラバス

試験範囲は次のとおりです。

- クラウドの概念
  - クラウドサービスを使用するメリットと考慮事項
  - IaaS、PaaS、SaaS の違い
  - パブリック、プライベート、ハイブリッドのクラウドモデルの違い
- コア Azure サービス
  - コアとなる Azure アーキテクチャコンポーネント
  - Azure で利用可能なコア製品
  - Azure で利用可能ないくつかのソリューション
  - Azure 管理ツール
- セキュリティ、プライバシー、コンプライアンス、信頼
  - Azure でのネットワーク接続のセキュリティ保護
  - コア Azure Identity サービス
  - Azure のセキュリティツールと機能
  - Azure のガバナンス手法
  - Azure の監視およびレポートオプション
  - Azure のプライバシー、コンプライアンス、データ保護基準
- Azure の価格、サービスレベル契約、およびライフサイクル
  - Azure サブスクリプション
  - コストの計画と管理
  - Azure サービスレベル契約 (SLA)
  - Azure のサービスライフサイクル

### (3) 試験対策本

Fundamentals 試験対策本は数種類出版されていますが、私は『合格対策 Microsoft 認定 AZ-900:Microsoft Azure Fundamentals テキスト&問題集』(リックテレコム)を使用しました。

問題集は書籍がなかったため、e ラーニングで udemy 社「AZ-900: Microsoft Azure Fundamentals 模擬問題集」とネット上で無料公開している問題集「練習問題 (問題集) ( Azure Fundamentals (Azure 基礎) AZ-900)」(<https://studyand.work/list-question-azure-az-900?#q79>)を使用しました。

テキストをまず章ごとに読んで理解し練習問題を解いていきます。章の内容を理解していれば解答できるレベルの問題です。最後に模擬試験を解いていきます。

次に問題慣れするために、問題集を解いていきます。udemy 社の問題数は 40 問が 2 セットとあまり多くないため、無料で公開されている 79 問の問題集を見つけ、これも解くようにしました。その後、他の試験と同様にテキストを読んで練習問題を解き、問題集を解くということを繰り返します。

#### (4) 参考資料

Microsoft Learn サイトに詳しい資料や教材がありますので、これらを参考にされるとよいと思います。ただし、日本語の説明は機械翻訳そのままのような表現が多く、わかりやすい資料ではありません。比較的やさしい英語ですので英語で読んだ方がよいと思います。

拙著『IT コンサルタントが書いたデジタル技術入門』（Kindle 本）や研修コースシリーズ「デジタル技術超入門」のクラウド／アジャイル編や「SE のためのデジタルシステム入門」の AWS・Azure 編もご参考にいただければと思います。

#### (5) 試験・発表

Microsoft の Azure 関連無料オンライン研修の中に Fundamentals 試験が無料で受けられる特典付きの研修があります。無料の半日セミナーを 2 日間受講すれば無料で試験を申し込むことができます。頻繁に開催しているので利用しやすいと思います。私もこれを利用して自宅で受験しました。

受験の注意に従って、机の上のものはすべて片付け、ネットには有線接続した方がよいとのことなので有線で接続しました。

受験する場所は周りに何も無いようにする必要があったのですが、私の机の後ろはリモート会議用に幕を引いてあり、前と右手は窓なので問題なし。ただ左手には大きな本箱があるのでこれはダメ。これを隠す大きな布はないのでタオルケットで代用し隠しました。

受験時刻の 30 分前にログイン。受験前にパソコンのチェックがオンラインで行われ、アプリをダウンロード、セットアップ。試験場所を確認するために、スマホかパソコンのカメラで机のまわりの写真を撮り送ります。その後、試験監督からチャットで指示を受けます。再度机のまわりをカメラで見せてくれと言われたり、手首を見せてくれと言われたり、いろいろチェックされます。

ここまでは AWS 試験の時と同じだったのですが、今回は音声でリモート会議用の幕の後ろや部屋全体を写してくれとか、離れた所にあるテレビ（モニターではありません）に布をかけて隠せとかいろいろ指示されました。日本人ではない方の日本語での指示なのでコミュニケーションが取りにくく少々イライラ。試験会場で受験した方がよかったかなと思いました。

チェックが OK になると試験問題が送られてきて、チャットで問題が表示されていることの確認を受けた後、試験開始です。試験中はパソコンのカメラで監視され違反行為があるとチャットで注意されます。

試験問題はテキストや問題集レベルの問題が多かったと思います。

30 分くらいですべて解答。見直しもせずに終了。結果を確認。850 点で合格でした。その後、メールが来てダッシュボードから認定証、バッチがダウンロードできました。

### ・ Administrator Associate 試験

#### (1) 概要

Azure Administrator Associate 試験は、Microsoft Azure 環境の実装、管理、監視に関する専門知識を持つことを証明する中級レベルの認定資格試験です。次のスキルが評価され

ます。

- ・ Azure アイデンティティおよびガバナンスの管理
- ・ ストレージの作成と管理
- ・ Azure 計算資源の展開と管理
- ・ 仮想ネットワークの構成と管理
- ・ Azure 資源の監視とバックアップ

試験時間は 120 分で 1000 点満点、700 点以上で合格です。

## (2) シラバス

シラバスは <https://query.prod.cms.rt.microsoft.com/cms/api/am/binary/RE4pCWy> を参照してください (英語です)。

## (3) 試験対策本

Administrator Associate 試験対策本は日本ではまだあまり出版されておらず、2022 年 3 月現在日本語の対策本は『合格対策 Microsoft 認定試験 AZ-104:Microsoft Azure Administrator テキスト&演習問題』(インプレス)のみです。私もこれを使用しました。

問題集は書籍がなかったため、e ラーニングで udey 社「AZ-104: Microsoft Azure Administrator 2022 年 模擬試験問題集」を使用しました。会社には他にも Administrator Associate 試験問題集がありましたが、この問題集は問題数が一番多かったのを選びました。

テキストをまず章ごとに読んで理解し練習問題を解いていきます。章ごとの練習問題は試験問題に比較するとかなり易しいです。これを確実に解けるようになって合格レベルには達しません。最後の模擬試験が試験問題に近いですが、これでもまだ合格レベルに達しません。

AWS のクラウドプラクティショナー試験とソリューションアーキテクトアソシエイト試験と同様に、Fundamentals 試験と Administrator Associate 試験には大きな差があります。Fundamentals 試験は各サービスの内容を理解していれば答えられるレベルの問題でしたが、この試験ではかなり細かなレベルの知識が要求されます。機能設定方法や設定内容の読解なども求められ、AWS のソリューションアーキテクトアソシエイト試験よりも私には難しく感じました。

これに慣れておかないと合格できません。そのため、テキストの練習問題、模擬試験だけでなく、e ラーニングの問題集を解いて問題慣れしておく必要があります。この問題集はかなり難しい問題、細かな知識を求める問題が多く、最初は 5 割程度しか正解できませんでした。また解答の解説もあまりわかりやすいものではないので、関連する部分のテキストを読み直して理解する必要がありました。何度も解くことで最終的には 9 割以上の正解率になりました。

## (4) 参考資料

Fundamentals 試験と同様に Microsoft Learn サイトに詳しい資料や教材がありますので、これらを参考にされるとよいと思います。ただし、日本語の説明は機械翻訳そのままのような表現が多くあり、わかりやすい資料ではありません。英語で読んだ方がわかりやすいかと思います。

Fundamentals 試験と同様に、拙著『IT コンサルタントが書いたデジタル技術入門』(Kindle 本) や研修コースシリーズ「デジタル技術超入門」のクラウド/アジャイル編や

「SEのためのデジタルシステム入門」のAWS・Azure編もご参考にしていただければと思います。

### (5) 試験・発表

Fundamentals 試験のように受験料が無料になる特典付き研修がイベントとして開催されることもあるようですが、直近ではなかったので割引になるバウチャーを探しました。1月末までは3割引きのバウチャーを販売していたようでしたが、2月に入っていたのでありません。しかし、ネットをよく探すと売れ残った割引バウチャーを販売しているところが見つかりました。1回不合格でももう一度無料で受験できるバウチャーを3割引きで販売。正規料金の1回の受験価格よりも安いので、これを購入して申し込みました。もう1回受けられるという安心感を持って受験することができました。

今回は試験会場で受験しました。受付でチェックを受けて、ロッカーにすべての荷物を入れて会場へ。腕時計やスマホだけではなく、ポケットに入っているものもすべてロッカーに入れる必要があります。持ち込んでよいのは身分証明書とロッカーのキーだけ。机の上にはメモ用紙と筆記用具があります。

係の方がログインして試験開始です。

最初にケーススタディの問題が出されました。ケースを読んでざっと理解してから問題を読み再度ケースを読み直して解答。かなり時間がかかります。これを何問もやっていくうちに時間が足りなくなるのではと心配になってきました。問題もかなり難しく早くもこれは受からないな、途中リタイヤかと思いはじめました。でもここはグッとがまん。

ケーススタディのセクションが終わり、択一・複数選択などのセクションへ。問題文が短くなり理解にあまり時間がかからなくなり少しスピードアップ。見慣れた問題も多く問題数の多い問題集をやっておいた効果が出てきました。そしてシナリオ問題へ。

セクションごとに見直しの機会はありましたが、時間が足りなくなるのが心配で見直しせずに突き進んできました。ケーススタディでかかった時間がボディブローのように効いています。

でも、結局全問解答したのは終了時刻の20分前。もう少しゆっくりやってよかったのか。しかし、ここまで来ると見直しはできないので、運を天に任せて終了。830点で合格でした。スコアシートを受付でもらい帰宅。その後、メールが来てダッシュボードから認定証、バッジがダウンロードできました。